

ぼくのノート

⑤0 歪められた真実

日本原子力発電・敦賀原発二号機の再稼働審査資料が、書き換えられていたことが発覚した。それは建屋直下を走る断層評価の地質データで、活断層であれば廃炉が迫られる極めて重要なもの。原子力規制委員会は、悪質だとして審査自体を中断し、再稼働のめどがたたなくなった。

原発の安全性を信じ研究する技術者もしいたとしたら、さぞ裏切られた気持ちだろう。そこにある事実が偽られたのだから、右も左も上も下もあつたもんじゃない。

それとも、偽造されたデータの上でしか原発は存続できなくなっているとしたら、それを推進する国の姿勢が問われてしかるべきことになる。

嘘と隠ぺい、忖度のはびこる政治によって、国の学術と良心はズタズタに傷つけられた。日本は今、このまま没落への道を突き進んで行くのだろうか。



認定NPO法人 いわき放射能市民測定室

たらちねクリニック

院長 藤田 操